

# 生活経済に関する意識調査(ダイジェスト版)

千葉市女性センターでは、「生活経済に関する意識調査」を実施しました。この調査は、日常の生活や経済、男女の生活と消費と経済観、くらし方と生活に関する意識などについて調べ、男女共同参画の観点を踏まえ整理・把握することで、今後の情報提供や施策へ反映させていくことを目的としています。

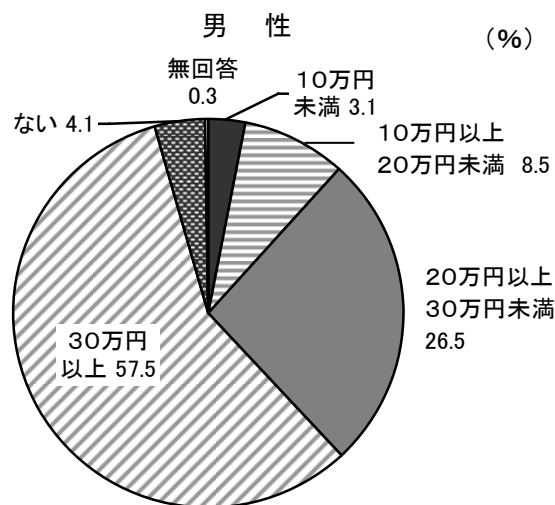
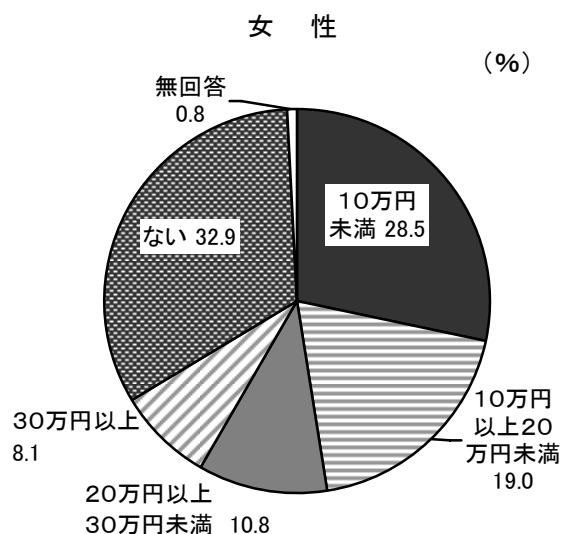
■ 調査の対象	千葉市にお住まいの20～60歳までの男女各1,500人(無作為抽出)
■ 調査の方法	郵送配布—郵送回収法
■ 調査の期間	平成17年9月6日～平成17年9月21日
■ 回収状況	有効回答数 814件 : 有効回収率 27.1%

※%は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、%の合計が100%にならないことがあります。

## 収入の有無

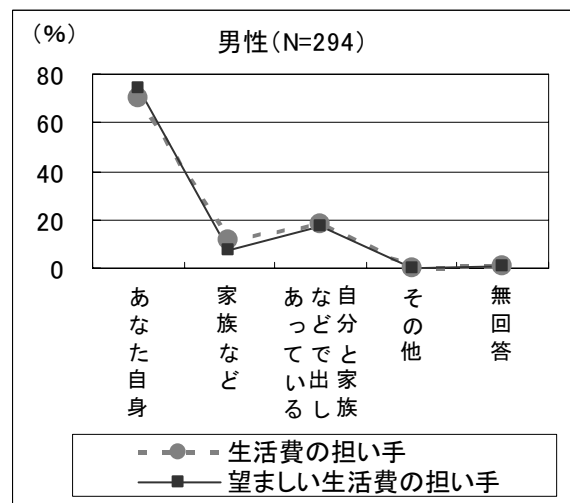
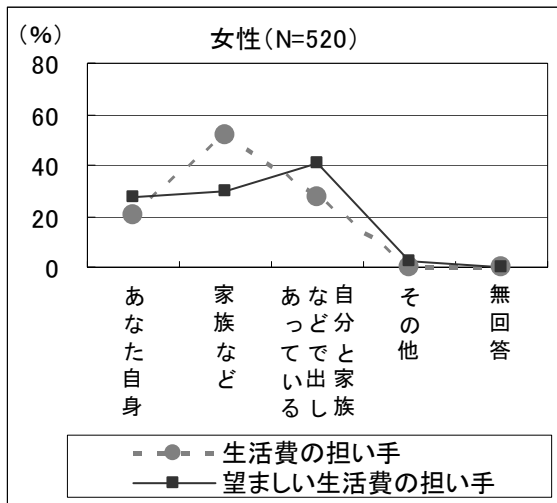
**収入の割合** 女性の約66%、男性の約96%に収入があります。

**収入の金額** 男性では、約58%の人が一ヶ月に30万円以上の収入を得ているのに対して、女性では収入がない人が約33%、10万円未満の人が約29%と、男性より収入の低さが目立ちます。



## 生活費の担い手、望ましい生活費の担い手

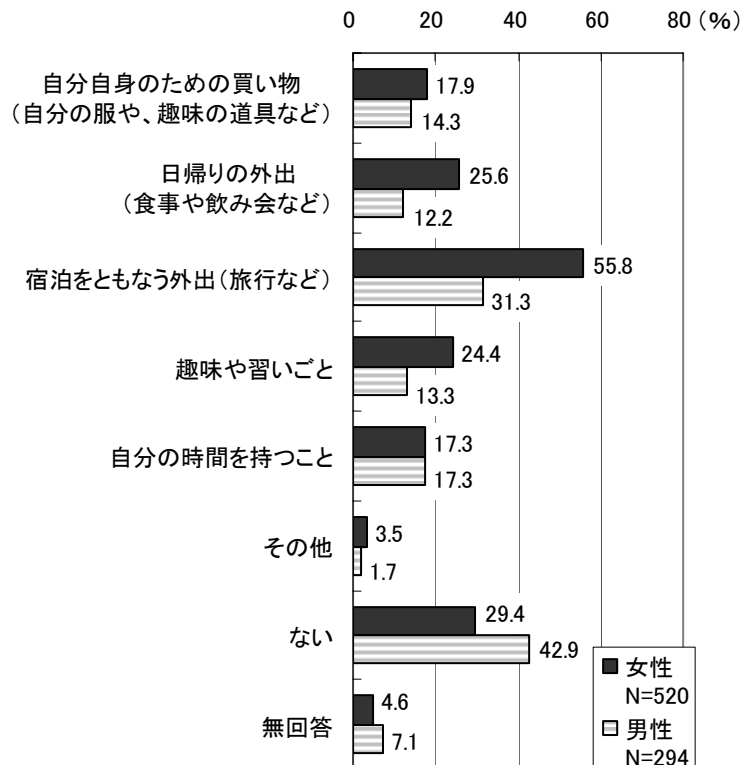
- 「あなたの生活費は主に誰が担っているか」の間では、女性では「家族など」が高く、男性では「自分（あなた自身）」が高くなっています。
- 「あなたの生活費は主に誰が担うことが望ましいか」の間では、女性では「自分と家族で出し合う」が高く、現実との間に差がみられました。男性では「自分（あなた自身）」が高く、理想と現実とがほぼ一致しています。



## 気兼ねがあってやりづらいこと

※いくつでも回答

- 女性では、「宿泊をとまなう外出」が約56%と最も高く、次いで「気兼ねがあってやりづらいことはない」です。
- 男性では、「気兼ねがあってやりづらいことはない」が約43%と最も高く、次いで「宿泊をとまなう外出」の約31%です。
- 女性の方が、普段の生活の中で気兼ねがあってやりづらいことが男性より多い傾向があります。



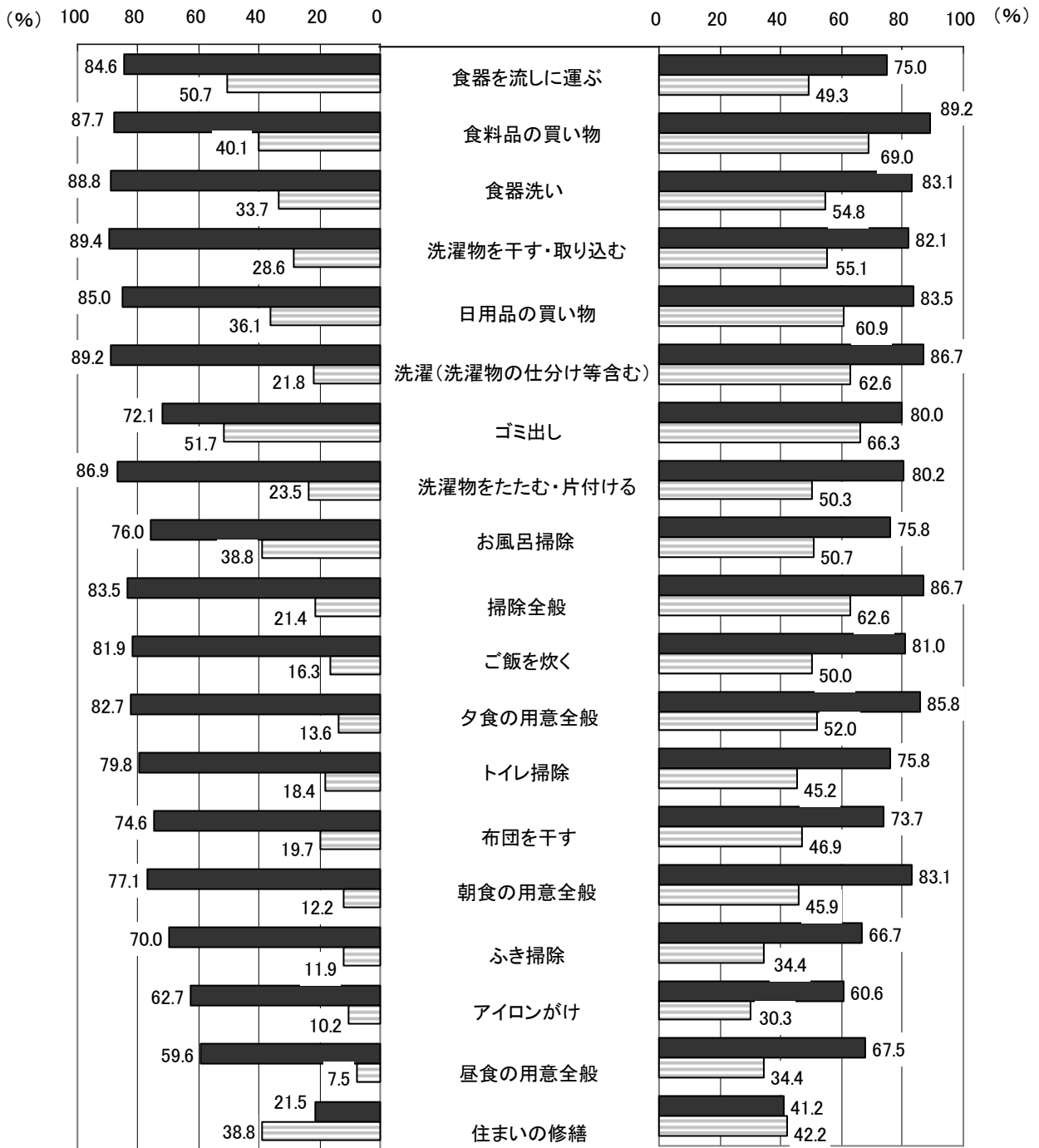
○男女共に、自立して生活するためには家事を自身で行うことが望ましいと考えています。

○女性では、日常的に家事を行っている割合が高い一方、男性では、日常的に家事を行っている割合は女性と比べ目立って低く、理想と現実との差が大きくなっています。

■ 女性 N=520  
□ 男性 N=294

問 14 日常的に行っている家事〔性別〕

問 15 日常的に行うのが望ましい家事〔性別〕



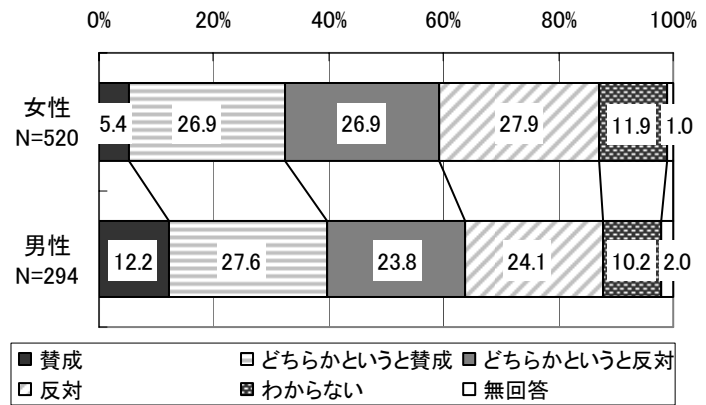
上記グラフの詳細は報告書P29、P32参照

## 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」 との考え方について

○女性では約55%、男性では約48%の人が反対※しています。

○男女共に反対の人が多いですが、女性では約32%、男性では約40%の人が賛成※をしています。

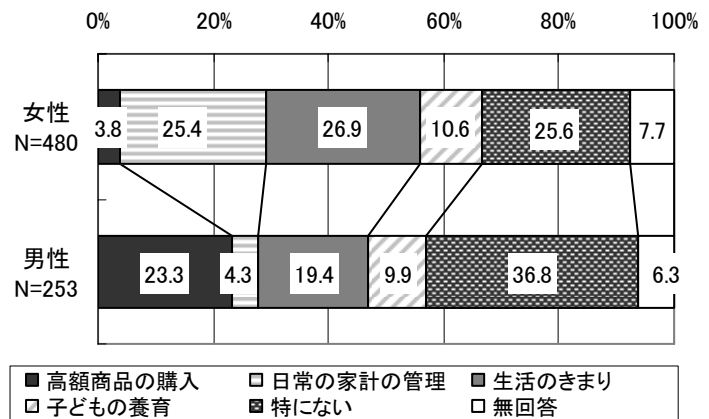
※賛成＝「賛成」「どちらかという賛成」を合算  
※反対＝「反対」「どちらかという反対」を合算



## 生活の中で尊重されたいこと

○女性では、生活のきまりで尊重されたいと望んでいる人が約27%いますが、日常の家計の管理で尊重されたい人（約25%）もわずかな差で続いています。

○男性では、生活の中で尊重されたいことは特にない人が約37%、高額商品の購入で尊重されたい人が約23%となっています。



## 今後に向けて

今回の調査で、男性と女性では就労形態と収入に格差があること、女性では経済的自立が男性より望むほど実現できていないという結果が出ました。特に、概ね出産・育児期にあたる30歳代で女性の収入がある割合が男性を大きく下回っていることや、その後40歳代で再び回復しているものの、20歳代と同レベルまでは達していないことが見えました。これらのことから、結婚や出産・育児などにより一旦職を辞した女性の再就職や、継続して就業したい女性への支援として、様々な就業形態に関する情報提供、スキルアップのための学習支援を今以上に充実していくことが望まれます。

また、家事を行うことについては、大多数の男性が生活的自立の為にやる必要があると考えているのにもかかわらず、現実との間に大きく差があるという実態が見られました。そこで、男性に向けた、家事に必要な知識や技術を習得するための機会を提供することが必要であると同時に、男女共に仕事と家事などをバランスよく両立できるよう、いっそうの市民意識の醸成及び企業への働きかけが求められます。

性別役割分担意識については、年代が高くなるほど固定観念が依然として存在していることが確認できました。このような固定的性別役割分担意識にとらわれることなく、多様な生き方が尊重され、様々な場面で自身の能力を十分に発揮できるように、適切な情報提供、学習・研修の機会の提供、様々な取り組みや呼びかけを引き続き実施していくことが望まれます。

発行日：平成18年2月  
発行：千葉市市民局生活文化部男女共同参画課  
千葉市女性センター 電話：043-209-8771

※なお、本調査報告書は千葉市女性センター及び市内図書館にございますので、詳しくはそちらをご覧ください。